

鶯知らず

再び



北大路魯山人が「京都には「鶯^{さぎし}知らず」といううまい小魚がある。」と記しています。

その小魚は、鴨川に多く生息するオイカワ（ハエ、ハエジャコ）の稚魚のことです。

オイカワは鶯の大好物ですが、「鶯知らず」という名の由来は、鶯でさえも見逃すくらい小さいことから、冬に身を寄せ合って群れる姿が鶯にとって大きな魚に見えることから、そのように名付けられたとも言われています。

鶯知らずは、冬に旬を向かえる魚であり、かつては佃煮にして、京都名産の土産物として売られていたとのこと。

京都市では、賀茂川漁業協同組合とともに、その復活を検討しております。



冬の鴨川，鶯知らず捕りの絶好の季節
三条大橋から四条大橋を望む。

